南極観測における今後６カ年のアイスコア関連計画
Japanese glaciological activity in Antarctica for the next six years (JARE Phase IX)

*川村 賢二[1]、本山 秀明[1]、東 久美子[1]、藤田 秀二[1]、ドームふじ　アイスコアコンソーシアム
*Kenji Kawamura[1], Hideaki Motoyama[1], Kumiko Goto-Azuma[1], Shuji Fujita[1], Dome Fuji Ice Core Consortium

1.情報・システム研究機構　国立極地研究所
1.National Institute of Polar Research, Research Organization of Information and Systems

ドームふじ深層氷床コアは72万年間をカバーし、現在までその解析が進められてきた。第VIII期南極地域観測事業においては重点研究観測のひとつとして「氷期-間氷期サイクルから見た現在と将来の地球環境」を実施し、第２期ドームふじコアの持ち帰りや浅層・中層コア掘削、広域雪氷観測等を進めた。
日本も参加しているアイスコア研究の国際組織IPICS（PAGES, SCAR, IACSが支援する、アイスコア研究者・設営関係者で構成される組織）では、最重要の科学目標の一つとして、氷期-間氷期サイクルの卓越周期が変化した時代をカバーする150万年のアイスコアの掘削を挙げている。我々としては、この目的に沿って現ドームふじ基地近傍における次期掘削の検討を開始し、地上レーダー探査による底面環境の調査と掘削候補地域の大まかな選定を行ってきた。
第IX期（2016年度から６年間）には、新たな深層コア掘削点を探るための雪氷学的調査を実施したうえで、掘削点を選定し、深層掘削につながるパイロット孔掘削から500ｍ級の深度まで掘削することを目的とする。また、第２期ドームふじ深層コアの一部はドームふじ基地に保管されており、当該コアの研究推進のためその早期持ち帰りが必須である。
本発表では、内陸以外の観測や最新の国際状況のアップデート等も紹介する。

キーワード：南極地域観測事業、気候変動、アイスコア
Keywords: Japanese Antarctic Research Expedition, Climate change, Ice core

©2016. Japan Geoscience Union. All Right Reserved.